

## 第17回サクスフォーラム 質問に対する回答

(敬称略)

政治の教科書を生徒会で作るとしたら、どういうことをしたらいいですか？

登壇者	回 答
足立あゆみ	<p>政治の教科書を生徒会で作ろうと思って頂けたのでしょうか。とっても嬉しいです！            まずはターゲットを定めるところからかなと思います。            どんな人に届けたいのか、その政治の教科書を読んでどうなって欲しいのか、政治の教科書を作る            ときのターゲットをより具体的に細かく決めるところから始めるといいと思います。            私たちが Instagram の投稿や本を作る時もいつもそうしています。            生徒会の内情がよく分からないのですが、印刷とか生徒会で政治の教科書の活動を新たにすること            によってであれば友達や先生にも相談してみる必要もあると思います。            やりたい！という思いをまっすぐ伝えるところからかもしれません。            聞きたいことや NO YOUTH NO JAPAN で協力できることがあればいつでも団体ホームページの一番            下のお問い合わせフォームからご連絡ください。</p>
藤堂 彰	<p>教科書といういいアイデアが浮かばず、申し訳ありません。            ただ生徒会自体がミニ議会みたいなのところなので、役員がルールを逸脱しないルール作りと学生が            置いてけぼりにならないよう、みんなの意見を聞いて前向きに物事を考えれる生徒会を目指してほ            しいです。(飯塚市議会もそうありがたいです)</p>
崎山 佐穂	<p>学校では公民などで議会や政治のシステムについては学ぶと思います。            なかなか身近に感じられなかったりするかと思うのでその地域の具体例や、逆に諸外国との比較を            する事で(選挙権や被選挙権の年齢や、投票率等)客観的や俯瞰的に日本やその地域のことが見える            ようになるのでは無いでしょうか？</p>
諫山 太郎	<p>前提として私は、どれだけ政治に問題意識や関心を持ってもらったとしても、それ自体は投票行動            に繋がらないことも多いと思っています。            これは、周囲の友人を見ているとも思うことで、結局誰に投票したらいいのかわからないという人が            多いからです。            そのため、せっかく作るのであれば【“推し政党”を作る！】という点まで掘られた内容を期待しま            す。            できるだけ中立な立場で、その政党の概要や、さまざまな論点におけるその政党の主張や立場を記            載していけば投票しやすいと考えています。            その際は、ぜひ政党に対して質問を送るなどして、できるだけ齟齬のないように、かつ若者が見や            すいような形(マンガなど)で頑張ってみてください！</p>

## 議会で一切発言しない議員についてどう思いますか？

登壇者	回 答
足立 あゆみ	<p>どうして議会で一切発言しない議員になっているのか、議会の仕組みなのかどう選挙活動をしているのかや個人的なことなど一切発言しない議員が全員同じ背景ではないかもしれませんが、より市民のことを真ん中に考える市民派議員が増えるためにその背景を分析してみんなで有権者として市民としてできることを行なっていけたらなと思います。</p>
藤堂 彰	<p>委員会でも発言しない、一般質問もしないとなれば議員としての資格なしと判断し、次期選挙で評価して頂ければと思います。 飯塚市議会は大小ありますが皆さんなにかしら発言致しております。</p>
崎山 佐穂	<p>様々な理由が考えられると思います。 全ての課題に対して皆が専門家とは限らないのが現状と思います。 だからこそ議員は質問していくこと、常に学んでいくことが仕事ですよね。 議員同士が多様な意見の中でもリスペクトして高め合える議会、そして市民も投票という形で監視・意思表示していくことが必要ですね。</p>
諫山 太郎	<p>“一切発言しない”と言っても様々なタイプ、捉え方があると思うので一概には言えませんが、一部地方議会において年間1回、あるいは任期の間に1～2回程度しか発言しない議員さんもいらっしゃると聞いています。 もちろん、自ら議員に立候補し、市民の代表としてその場にいるという責任を持って全力で取り組んでいただかなくてはならないことは大前提です。 ただ一方で、そういった議員も、正式に定められた方法に基づいて行われた手続きのもとで選ばれた“市民の代表”であることもまた事実です。 さらに、実現可能性などは置いておいて、一応は一定の手続きを満たせば除名やリコールを行うこと自体は可能です。 そういった中で正式に“市民の代表”として選ばれた議員に対して、単に無責任だということも難しいのかなとも思っています。 私個人的には、そもそもの選挙や議会のシステムなどを変えるべきだという考えです。 たとえば、立候補者に一定の質が保たれないのであれば定数を削減する必要があります。 また、私自身も議会を傍聴すると、あまりに専門的で、真剣に聞いていても分からない内容も恥ずかしながら多々あります。 議員も勉強すべきとはいえ、ここまで深く知る必要もないだろうという内容も存在することは事実です。 そういった内容を、必ずしも全員が聞いて、その場で手続きを行う必要があるのかという点もそもそも疑問です。 市民がさらに学び、“一票一票の質”を高め、その結果として議員、あるいは議会全体の質が上がっていくということが理想だと考えています。</p>

(女性・若者の政治参画に関し)飯塚市で取り組むべきことは何だと思いますか？

登壇者	回 答
足立 あゆみ	<p>市の政治や行政については回答を差し控えさせていただきますが、市民も政治家も行政で働いている人もみんな、最後のトークセッションで話したように自分の特権性に自覚的になってより多くの他の人にマイクを渡して声を聞き対話していく姿勢が女性・若者の政治参加では根本的に重要なことだと思います。</p>
藤堂 彰	<p>飯塚市で見ると主権者教育にもっと時間をかけてもいいと考えます。 現在は学校などに対し投票箱の貸し出しなどを行っていますが、他市では学生議会など定期的にやられている所はあります。 市長が学校を訪問して意見を聞く、みたいなこともやられており、政治や政治家と距離が縮まるイベントなども良いと考えます。 また議会側も市民に近づいていくことも大切だと思います。 個人の市政報告会ではなく、議会報告会などを実施して、政治を身近に感じてもらえるようにしていければと思います。(議会運営委員会でその点を只今協議されております。)</p>
崎山 佐穂	<p>他議会の議員ですので、飯塚市で取り組むべき、というより一般論でおはなしさせていただきます。 誰しものが政治は自分事と捉えられるような気軽に語り合える場所やツールが身近な地域ごとにあれば良いと思います。 より多くの方が政治に関心を持つ事や自分事にするには、小さな頃からの主権者意識や自己効力感が必要だと思います。 長期的に考えると、子どもたちが地域に参画し意見が尊重され反映されるという成功体験を積むことや、子どもが政治的な質問や意見を持つことをタブー視せずに、色々な意見がある事を伝えて対話していくことが大事だと思います。</p>
諫山 太郎	<p>若者の政治参画に関しては、積極的に“選挙そのもの”に触れてもらうことで、投票行動に繋げていくことが必要だと考えています。 「選挙に行かなければいけないことはわかったが、誰に投票したらいいかわからない。」といった声もよく耳にします。 たしかに、前回の飯塚市議選では立候補者数が34名。やっと政治に興味を持ち始めた若者に、「各候補者の情報をしっかり集めて～」といった教育をしておきながら、いざ選挙となるとその候補者が34名もいて、34名すべてを調べ尽くすなんて元々興味があっても無謀です。投票行動に繋がらないことも頷けます。 生徒会選挙をさらに活発化し、なぜこの人に投票するのかを深く考えさせることが、投票行動や情報収集に最も近い形だと思います。 その意味で、私は【市内の高校の生徒会に対して使途自由で大きなお金を配る】ということを提案しています。 このお金を使って何をするのかという点は生徒会選挙における極めて分かりやすいマニフェストになり得るため、さらに盛り上がるのが予想されます。 誰がどのような使い方を掲げているのかをしっかりと調べることで、実際の投票行動にかなり近い形を再現できると考えています。 若い世代の一人一人が“推しの政党”をつくり、投票がしやすくなることも期待しています。 また、女性の政治参画についてですが、これについては“市町村単位で取り組めることは限られていると思う”ということが正直なところだと思います。 何にしてもまずは女性の立候補者を増やすことに始まると思います。 ただ、おそらくそれが一番難しいところだと思います。 現状、女性が立候補しない要因として挙げられるのが、“政治は男性のものというなんとなくのイメージ”、“土日も不定期で活動があり家事や育児との両立が困難である”、“立候補には多額のお金がかかる”などではないでしょうか。 その上でですが、私は不定期で若者を対象とした、政治に関する集まりやイベントなどの場に参加したり主催したりすることがありますが、そこにくる若者は約半数が女性です。 おそらく若い世代に限って言えば、“政治が男性のもの”というイメージはそこまで強くない方が多いです。家事や育児も夫婦共働きなどでパートナーとの協力が前提、かつ育児休暇についても男性側が一定以上取得するのは当たり前だという考えている方がほとんどです。 これに関しては周囲だけかもしれませんが、私は中学も高校も生徒会長は女性でしたので、強い意志を持って変えたいという想いを持っている方は女性の方が多くはないかとすら感じています。 そこで、直接的な解決になってはいないかもしれませんが、一旦若者に絞って政治に触れられるイベントの開催などを行うことが結局最短ではないかと思えます。これは女性に限ってはいません。あくまで政治に触れられるイベントというだけでも、自然と女性は来てくれると思います。 極端に言えば、選挙を花火大会レベルのイベントにして、選挙日当日に打ち上げ花火を上げるくらいのレベルのことをすれば選挙を意識してもらえるのではないのでしょうか。</p>

## ネット投票が進まないのはなぜでしょうか？

登壇者	回 答
足立あゆみ	<p>電子投票できるようになっているのは実は世界でもまだ例が少ないです。選挙には秘密投票の原則というものがあって、どこに投票するのかを誰かに操作されたり、指示された党に投票しなかったことがバレて責任を負わされるといったことが起きないようにしなければなりません。</p> <p>電子投票の場合、秘密投票をどう守るのか工夫が必要なため日本を含め様々な国でも慎重になっているのではないかと思います。</p> <p>今の日本の投票所は名簿管理など投票以外の電子で出来そうな事務処理も紙でやっているところが多いです。</p> <p>電子投票の前にそのような事務処理を電子化するところからなのかもしれません。</p>
藤堂 彰	<p>すみません。この点、私もわかりかねます。</p> <p>与党野党問わず、違う意見の方々は一定数いるのだろうと判断しております。</p>
崎山佐穂	<p>本人確認の難しさ、個人情報や、投票の秘密、データの改ざんなどさまざまな壁が立ちはだかっていますので、現時点ではネット投票は現実的ではないと思います。</p> <p>しかし、遠隔でネット投票できることは、病氣、介護や子育てで忙しい、体が不自由、人と会いたくない、ネットの方が楽に感じる...など年齢や性別に関係無くメリットがあると思われれます。</p> <p>上記の壁を乗り越える技術が進歩していくためには、人々が必要と思い議論し、注目を集め、開発する資金や人材を集める必要があるため、ネット投票を希望されている方はできるはずない、進むはずないと思わず積極的にネット投票の話題を取り上げていったら良いのかなと思います。</p>
諫山太郎	<p>ネット投票については、選挙の原則のひとつである【秘密選挙】が守られないため、現実的ではないと考えております。</p> <p>たとえば、AさんがBさんに対して、「この人に投票しろ！」と強要した場合、現行の投票方式であれば、少なくとも区切られた場所で記入し投票ができるため、実際に誰に投票しても相手には伝わりません。</p> <p>ただ、スマホやPCを使ったネット投票となると、第三者(Aさん)がその場で後ろから監視することが可能なため、秘密選挙は保証されません。</p>

## NO YOUTH NO JAPANの活動の成果はいかがでしょう？

登壇者	回 答
足立あゆみ	<p>社会問題について扱っているのに Instagram のフォロワーが10万人を超えたことは一つの成果だと思います。</p> <p>これまでに取材やイベント、出張授業などで出会った同世代に「いつも勉強させてもらっている」などの反応をたくさんもらっていて、エンパワーメントできているのではないかと考えています。</p> <p>地方選挙の投票啓発の取り組みをしていた時は実際に投票率が上がったこともありました。</p> <p>活動を始めた頃に比べて、少しずつ声を上げる若者が増え、社会の側も若者の声を聞こうという取り組みや声掛けが増えてきていると活動をしていて感じています。</p>